

## 新・カラーアトラス 微生物検査

山中喜代治編集



最近、感染症に対する国民の注目度は上がりつつある。それは、新型インフルエンザウイルスや各種薬剤耐性菌による感染症が社会問題となってきたためでもある。これらの感染症の診断には微生物検査が不可欠で、検査を担当する微生物検査技師は、迅速で正確な病原菌の検出が要求されている。しかし、学生時代にすべての病原菌について教わるわけではなく、医療現場でも経験しない未知の病原菌との遭遇があり、「さてどうしよう」や「検査手順?」「分離菌は何か?」と悩むことがあるのではないかと想像される。

本書のキャッチフレーズは“百聞は一見に如かず”で、1996年、*Medical Technology* 別冊『カラーアトラス 微生物検査』のリニューアル版として出版されたものである。編集は、現在も臨床微生物検査学のリーダーとして活躍中の大手前病院 医療技術部・臨床検査技術部長の山中喜代治先生であり、視覚からの教育プログラムを企画され、経験したことのない症例を多く呈示し、「見たことがないとは言わさないよ!」とされたところが特徴である。内容は、感染症診断の進め方、微生物検査、症例、感染症法、病原微生物の分類、耐性菌の概説と検査法および判定基準などについて、医療現場の第一線で活躍されている専門家により執筆されている。全体的には平易な文体でまとめられ、理解しやすいように図表やカラー写真が多く挿入されている。

感染症診断の進め方の章では、医師による臨床診断の概要、感染症検査の利用、検体採取と取り扱いについて述べられている。各種検体採取法は、血液培養、髄液、穿刺液、呼吸器系、喀出痰、泌尿・生殖器、糞便、眼科検体などのポイントが表にまとめられている。

微生物検査の章では、基本操作、染色鏡検、迅速検査、同定検査、薬剤感受性検査などが詳細に述べられている。とくに、バーナーの取り扱いや集落の観察、グラム染色については理解しやすく写真で解説されている。

症例の章では、全身感染症、呼吸器感染症、消化器感染症、尿路・性感染症、その他の感染症について、検査の進め方の一連の流れを鮮明なカラー写真を提示し、経験しておくべき重要な47症例について解説している。すなわち、患者背景、グラム染色所見、培養所見、同定・感受性検査、経過（治療を含めて）、まとめ（注意事項と鑑別の要点）、参考文献が記載されている。とくに、「*Pasteurella multocida*による創傷感染」と「*Bartonella henselae*によるネコひっかき病」は、ペットからの感染症としてぜひ一読されることを推奨する。

感染症法の章では、これまでの法律の経緯とバイオテロ対策としての病原体管理について述べられている。病原微生物の分類の章では、細菌分類の変遷、最近の動向、細菌学名の調べ方について実例が図示されている。また、菌名の正しい表現方法や微生物の分類に関する著書、ウェブサイトが紹介されていて大変参考になる。

耐性菌の概説と検査法および判定基準の章では、MRSA、PRSP、VRE、BLNAR、ESBL、MDRPなどについて、CLSI (Clinical Laboratory Standards Institute) に記載されている方法と記載されていない臨床的に重要な方法について解説している。

本書は、微生物検査室に常備しておくべき実践書であるし、これから微生物検査を志す者にとっては、未知との遭遇から本物との遭遇への感激を味わうためにも、自分の書として手に入れ、読み倒してほしい一冊である。

(愛媛大学医学部附属病院 診療支援部部長  
村瀬光春)

<B5判/232頁/定価5,460円(本体5,200円+税5%)/  
医歯薬出版/2009>